

令和5年度 第2回長野市青少年健全育成審議会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和6年2月19日（月）午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 中部公民館 4階ホール
- 3 出席者 委員11名、事務局12名
- 4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 教育次長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 議 事（議事進行 会長）
 - ア 家庭・地域学びの課（青少年担当）の事業について
 - イ 少年育成センターの事業について
 - ウ 「みらいハッ！ケン」プロジェクトについて
- (5) その他
- (6) 閉 会

5 会議録

(1) 教育次長あいさつ

今年度は数年前からのコロナ禍の影響も少し収まり、少しずつ日常が戻り始めてきたため各種イベントや地域での行事も開催されるようになった。しかし、行事が開催される中でも、子どもたちや若者の取り巻く環境が少しずつ複雑化してきていて、最近でも子どもの虐待のニュースが複数出ている。そういう多様で複合的な問題の解決のためには、まず子ども・若者を孤立させない、地域全体で支えていく社会を築くことが重要ではないかと考える。本年度本市としては、新たな教育支援センター「SASAランド」や「ながのこども館」及び「豊野防災交流センター」の開設を予定している。それらは子どもたちを取り巻く環境の充実につながるものではないかと考えており、しっかり準備し取り組みたいと考えている。

今日の審議会では、現時点での令和5年度青少年健全育成事業、少年育成センター事業について報告する。また、前回の審議会で「本市でも新しい活動を」というご意見をいただいた。今行われていることとして、子どもたちが様々な体験を通じて自分の好きな活動を見つけ、自己肯定感を育みながら成長できる環境を提供する、子どもの体験・学び応援モデル事業「みらいハッ！ケンプロジェクト」を今年度11月から開始している。担当からの事業説明について、それぞれのお立場からご意見を頂けたらと思う。

今後とも、本市の青少年健全育成に、委員の皆様のより一層のご支援、ご協力を申し上げます、簡単ではあるが、あいさつとする。

(2) 会長挨拶

ようやく新型コロナウイルスも5類になり、世間は活気を取り戻しつつあるが、様々な後遺症が残っているなど思う。薄く広がっている問題としては、やはりコロナ対策でソーシャルディスタンスとか人と人の関わりが遠ざかることが結構あったために、とくに発達段階の途中にある子どもにとっては影響がかなり大きく、いきなり表に心理的なものとして表れてくるケースは少なからずあり、広がりがあるのではないかと考えている。

コロナ禍において、それをきっかけにICTや情報機器が学校にひろがったが、ある意味ではよかったが、コロナ禍で広がったために、やはりどうしても効率性の道具というか、人と人が接しなくてもつながるものとして入ってきている。本来のICT良さは新しい人とつながったり、社会を広げたりということにあると思う。この会も新しい動きがあり、子どもたちが新しく孤立を抜け出してつながる場が出てくると思うので、期待したい。リーダー研修とか個人個人に学ぶ機会があるということだけでなく、リーダー研修をしたらそのリーダーの力を使って子どもたちがつながっていくとか、連鎖してどんどん人間関係のつながりを回復していくようになればいいなと思っている。誰かを支援するということはコストがかかるが、お互いに支援し合う・助け合う、これはコストがかからない。どんどんそういう場や機会を提供するなど、そういう場になっていけばいいなと思う。

(3) 議 事

【報 告】

ア 家庭・地域学びの課（青少年担当）の事業について

（説明：事務局）

（資料：令和5年度家庭・地域学びの課青少年担当の主な事業実施状況）

- ・青少年健全育成情報交換会、青少年健全育成作品コンクール、青少年健全育成フェスティバル、家庭教育力向上事業、成人指導者の会について
- ・親子わくわくフェスタ、子ども会リーダー研修会、シニアリーダー地区派遣事業、長野市子ども会キャンプ、長野市子どもわくわく体験事業補助金について

イ 少年育成センターの事業について

（説明：事務局）

（資料：令和5年度少年育成センター事業実施状況、「出前講座」実績）

- ・巡回指導活動、長野市青少年保護育成条例に関すること、少年相談活動、広報・啓発活動、研修活動について、出前講座資料DVDの視聴

ウ 「みらいハッ！ケン」プロジェクトについて

（説明：事務局）

（資料：子どもの体験・学び応援モデル事業について）

【質疑・意見】

報告事項アについて

(会 長)

それぞれの事業で相互に関連することはあるか。例えば、子ども会リーダー研修でリーダーとなった子どもたちがキャンプに参加するなどあれば教えていただきたい。子ども会リーダーがシニアリーダーになるなど、リーダーが不足しているというが、子ども会が活性化するとプラスになるなど影響があるのか。

(事務局)

子ども会リーダー研修会に参加しているリーダーの中から、だんだんシニアリーダーに移行していくことが従来は多かったのですが、自身がそれまで子ども会リーダー研修会で学び培ってきた経験をシニアリーダーになって生かしていくようなものが過去は行われてきていた。しかし、今はなかなか加人数が少なく、長期的に研修を受けられるお子さんが少なくなってきたというところではある。子ども会リーダー研修会をシニアリーダーの方が中心になって研修会を進めていき、またその研修会を通じて子ども会キャンプというものを企画・運営して実施している。

(会 長)

リーダーがかっこいい、私もなりたいと思って参加してもらえればと思う。

(委 員)

長野市子どもわくわく体験事業補助金について。コロナ禍で数字が少なくなって回復しているということが顕著に見て取れるが、今年度の予算はどのくらいだったのか。来年度はどの程度に見込んでいるのか。

(事務局)

今年度の予算は300万円ほどで、来年度も同じ予算規模で見込んでいる。

(委 員)

どんどん地域でも使ってもらえるよう、広報等含めよろしく申し上げます。

(委 員)

シニアリーダーの減少ということと、子ども会キャンプの参加者の減少という話があったが、どのようなところに減少の理由があるととらえているのか、考えがあったら伺いたい。

(事務局)

課で話をするのは、今の小学生・中学生・高校生の皆さんは、塾に行ったりといろいろな行事が目白押しで忙しいだろうなと考えてみた。そこにコロナが重なってしまったことで人数も減ってしまい、コロナが明けたばかりだがなかなか戻ってこないという風に分析をしている。先ほどご意見があった通り、リーダーを実際に自分の目で見て「こういうふうにやっていくんだな。」と、次の世代が育つことを理想として考え、それに近づけるよう事業を進めていきたいと思う。

(委員)

青少年健全育成情報交換会について、PTAの役員会議が重なってしまい出席者が少なかったということだったが、私は他市だが小・中・高、全部PTA会長をやった。PTAの行事やそれ以外にも会議が多すぎて本当に疲れてしまう。自分たちはPTAのため、自分の学校のために役員を引き受けているが、それ以外の会(県や市のPTA連合会等)があり、それぞれに会議をやらなければいけない・予算があるからやらなければいけないといった感じだったので、できるだけまとめて開催することにした。今のご両親もものすごく忙しいので、会議の減らすべきところは減らし、まとめるところはまとめないと、PTA役員のみ手がなくなるということもある。毎年親たちの環境に合わせた形で、できるだけ負担を減らそうとする工夫をしているか。

(事務局)

長野市PTA連合会(以下市P連)の皆様とは情報を共有するようにしているが、似た事業について統合しようというところまで検討が進んでいないので、会の充実や多くの方に参加していただくためにも、合同開催といったことも検討していきたいと思う。

(教育次長)

今言われた通り、市P連も動員や会議が大変とのことで、今年から再来年にかけて大幅に改革したいと会長が訴えていた。

(委員(市P連代表))

親の負担について、様々な会議に出席しなければならず土日がつぶれてしまったり、平日も夕方からなど時間帯もまちまちであったり、仕事との調節が難しいという方や、核家族の影響で祖父母が家で見に来てくれれば出席できるが、という保護者の方も多くなってきている。市P連でも少しずつ会議が減っていくように検討している。長野市教育委員会と市P連との会議の合同開催等についても来年度話していきたいと思う。

報告事項イについて

(委員)

大手コンビニでは成人誌の取り扱いが無くなったが、青少年に有害と思われる雑誌類が若干あったとのことだが、どのようなものが有害と思われるものなのか。どなたが判断されるのか。

少年相談専門委員会の検討内容について、ヘルメットの義務化による交通安全指導とあるが生徒指導の中でどの程度義務化させていくのか。

「育成センターだより」だが、字ばかりで私は読まれないと思うが、誰に読んでもらうために作っているのか。

(事務局)

有害図書は条例で決まっており、性的な描写が全体の20ページ以上または2割を超えるものについて有害と規定されている。少年育成センターの職員4人が手分けして15～20分ほど店の方と話しながら店舗内を回らせていただき確認している。東京オリンピックを境に減ってきているが、回ってみると気になることがあり、物を見ながら話をさせてもらっている。

ヘルメットの義務化による交通安全指導については、少年相談専門委員から各高校ではどうなっているか？ということで提案された。各関係機関と話をしている。

少年育成だよりについては、年間3回発行している。あまり見ないというお話があったが、900部印刷する中で、PTAの関係も含めた学校関係、健全育成に関わっている住民自治協議会の青少年担当、少年相談連絡会の構成メンバーの方などに送らせていただいている。できるだけ読んでもらえるように工夫はしているがいかがか。ここ何年かはネット・SNSに関わる実態について「こんなことが話題になっていますよ。ぜひ気をつけてください。」ということの色刷りの紙で挟み込み、付け加えて配布している。できるだけたくさんの方に読んでいただけるとありがたいが、様子をお聞かせいただきたい。

(委員)

ヘルメットに関して、高校生でヘルメットを着用しているのをあまり見かけないような気がするがそこはどんな感じか。

(事務局)

高校生がなかなか被らないのでどうしたらいいかという話合いがあった。高校の先生から低学年のうかが話しやすいという話があった。

報告事項ウについて

(委員)

とても素晴らしい事業だと感じた。市内の小中学生およそ28,000人のうち2/3くらいの方が登録をしているとのことから、とても市民の要望の強い事業なのかと思った。

予算はどのくらいになるのか。

(事務局)

予算としてはマックスの使用を想定して、28,000人×10,000円のポイント数の予算を計上している。

(委員)

そうすると3億円、来年度は増やすとのことですので。いろいろとこれから課題が見えてくるかと思うが、継続して行って欲しい。

家庭・地域学びの課で扱っている長野市子どもわくわく体験事業補助金（以下わくわく体験事業）との関係で意見を述べさせて欲しい。こども政策課の予算は3億円であったが、わくわく体験事業は300万円ということで2桁違うが、わくわく体験事業とこの子どもの体験・学び応援モデル事業（以下応援モデル事業）、それぞれ趣旨が違う。応援モデル事業は体験プログラムではあるが教育サービスが半数以上で、おそらく学習塾の月謝として払っている・習い事の月謝で払っているという方もたくさんいるのではないかと思う。それは個人的な・一家庭・一個人の関わりであり、他のお子さんとの関わりに支払われるものではない。わくわく体験事業はPTAで行っている事業の補助や、地域の育成会でたくさん子どもたちが地域の方とふれあうなど、そういうところで支払われている。なので、このわくわく体験事業と応援モデル事業を統合するという扱いはどうなのか。あくまで別のものとして、家庭・地域学びの課では地域の子どもの連携づくりに趣旨をおいて、応援モデル事業は個々の子どもに対応するというので、一緒にしないでいただきたいと思う。

今までわくわく体験事業は、スポーツはスキーとスケートだけ対象、音楽や演劇については補助対象でない。応援モデル事業はそれらも補助が可能ということで、対応ができて素晴らしいと思う。

応援モデル事業の利用手続きをスマホでできるようだが、スマホを使って簡単にできると思って申し込んだら、スマホが得意な方もいらっしゃるが、そうでない方もいらっしゃる。できたらもうちょっと簡単にできるものにしてもらおうと利用者も増えるのかなと思う。

家庭・地域学びの課は家庭・地域学びの課の取り組みとして、こども政策課はこども政策課の取り組みとしてやっていただきたい。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございました。わくわく体験事業と応援モデル事業の事業内容が重なるところがあり、子どもの体験というところでは一緒の事業であると感じている。ただやはり、家庭・地域学びの課として、青少年についてはできるだけ地域が育てる・地域が青少年を育てるといった原点に基づいた取り組みを進めているところである。地域を基盤とした子どもの集団、子ども会・育成会・PTAなどで遊びや地域の行事を通して社会性や創造性を子どもが育むといったものに私たちのわくわく体験事業を使っていく。体験といった意味では子どもたちが体験できる事業であるので、こども未来部と情報交換をしながら、一緒にできることはやっていきたいと考えている。

(委員)

とても夢のあるいい内容になっているなと思ったが、地域や住民自治協議会では対象サービスとなるものは限定されるのではないかと思う。地域別の分析などしてうまく融合できたらと期待しているところである。事業内容によってすみわけがあり、一人の人間に対するいろいろな複合的な政策があつていいと思うが、皆納得できるような政策にしていくためには、横につながり合っていく必要があると思う。

(委員)

応援モデル事業は個人で参加できる、わくわく体験事業の方は地域で子どもを育てることに対する援助でありすみわけが見えてとても分かりやすい。

近所の子どもたちにどの程度応援モデル事業を利用したのか聞いてみた。子どもたちの中で知っているのは1割くらいだった。1万円も使えるなら使わなければとすぐに動いた家と、うちは習い事をたくさんやっているからとてもその時間はないという家、いろいろな意見が出た。子どもたちからは初めてボルタリングを体験した、スキーに行った、焼き物をやってみたなど話が聞けて、とても充実したことに入っていきいいチャンスができるのだなと思った。令和6年度は通年で実施するとのことで、きっと保護者から保護者へ「使わなければ損だよ」とうまく知れ渡り広がっていくと思う。ぜひこれからも拡充して頑張ってもらいたいと思う。

子どもたちに話を聞く中で、町の育成会で剣道部をやっている3年生の女の子が、「とにかく体育館何とかして」と言い出したので聞いたら、育成会はストーブが使えず冬の体育館での剣道は辛いとのこと。社会体育は学校施設では火器厳禁というルールがあるので、学校の先生は使わせてあげたいがルールで決まっているとのこと。素足で体育館はすごく辛いので足袋を履くが、辛くて冬になると剣道を辞めてしまう子もいる。ぜひ子どもたちには暖房を使わせて欲しい。せっかく新たな体験事業が伸びていくときに、今まで町でやっていた活動がどんどんしぼんでいってしまうと寂しい。また、体育館の修繕についての意見も出た。もし学校施設についても予算が回ったら早めに直してほしい。

(事務局)

暖房の件については、社会体育・学校開放の担当のスポーツ課や施設の担当の教育委員会総務課の方に今のご意見を伝えさせていただく。どういったことで使えていたものが使えなくなったというのは確認しないと分からないが、要望として伝える。

修繕の件については、教育委員会総務課が学校施設を担当しているが、施設の修繕要望は、その都度学校から上がってきて、場合によっては建築課の担当とその都度見に行くそう。軽微なものなどはすぐに修繕できるが、大規模になりそうなものは、緊急性・安全性の観点から順番に順次改修していくという風にやっているそう。どちらにしても、子どもたちの危険がないよう対応していきたいと思う。

(委員)

プログラムに434の事業者が登録されているということだが、保護者の友達が以前から習っているバスケットボールについて、その事業者が登録していないせいかポイントが使用できないという話をしていた。来年度もプロジェクトを継続されるということだが、登録事業者について拡大を呼び掛けるようなことはするのかお聞きしたい。

(事務局)

ミニバスについてはミニバスの団体で説明会を用意するなど登録が積極的な様子であるが、今年度は期間が3か月ということもあり見送られたところもあるかと思う。ミニバスの団体が年会費でポイントを使いたいとご意見をいただいております、来年度は通年になって、それに対応できるようになるので、拡大していくのではないかと期待をしている。

スポーツ団体については全体での説明会のほかに、ご要望を頂ければ個別のご案内もする。保護者の立場から団体に「説明会をやるらしいよ。」と伝えていただいても結構なので、どんな形でも声かけいただければご案内する。積極的にかかわっていききたいと思う。